

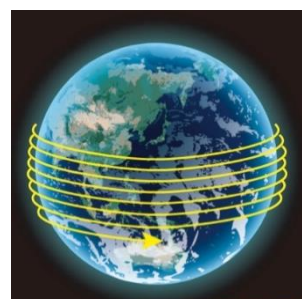
## 「創造の父なる神は超光速」(2021.5.16)

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。」(ヨハネ 14:1)

ヨハネ 14 章からは、イエス様の「告別説教」と呼ばれている箇所です。上掲のみ言葉はその冒頭に話されたものです。今、弟子たちは心配で、心配でなりません。なぜかというところ、イエス様が間もなく弟子たちのもとから離れ去り、弟子たちがついてくることができない所に行くといわれたからです。それで動揺する弟子たちに、父なる神様もわたしも、あなた方を捨てて孤児とはしない、一人ぼっちにはしない、いつも見守っている、だから、心を騒がせるな、と約束されたのです。

私たちも時として、神様がはるか遠くの存在になり、全く一人ぼっち、それこそ迷子になった子供の様に感じる時があります。以前、渡船して一人男鹿の加茂青砂の沖合で釣りをしていた時、見えるのは青い海、青い空。聞こえるのは波とそよ風。広いこの空間で、自分一人ぼっち、ふと妙な気分になったことがあります。皆さんにも思い当たることがあるのではないのでしょうか。

このみ言葉を思いめぐらしていたら、こんなことが思い浮かびました。光は秒速 30 万 km で、地球は一周 4 万 km ですから、1 秒間に地球を 7 周と半分進みます。それがどうした？神様はこの光を造られたお方です。光を造られたお方ですから、光を超えたお方です。超光速です。ですから、神様の目は超光速で見通し、神様の耳は、私たちの祈りを超光速で聞くことができます！そして神様の足は超光速で駆け寄り、神様の手は超光速で私たちをハグしてくれるのです。広い宇宙では地球がちっぽけに感じ、さらにその地球上の 78 億を超える人々の中で自分を取るに足らない、そして神様が存在しないのではと思うくらいに遠くに思えても、神様は超光速の存在です。神様からはすぐそばに私たちがいるのです。



「み名を崇めさせたまえ」という主の祈りは、神が神とされるように、という事です。つまり、目があっても見えず、耳があっても聞こえず、手があっても助けることができない偶像とされないように、という事です。上掲のみ言葉をもって自らを励まし、超光速の神に思いを馳せたい。み言葉に聖霊が働き、私たちをシャロームに導いてくれます！